

## 勿凝学問 378

政策技術屋がみる一体改革一連の流れ  
医療費推計厚労省陰謀説時代から今まで

2012 年 1 月 17 日  
慶應義塾大学 商学部  
教授 権丈善一

今日は、次の 2 つをまとめた。

- ✓ 勿凝学問 376 [年金が政争の具とされた現場——なぜ、年金局は経済前提専門委員会を通さない年金試算を行ったのか？](#)
- ✓ 勿凝学問 377 [財政改革研究会という今日の政治力学のけっこうな原点](#)

ほとんどその時代に生き、そこに関わっていないと分からない、現場生き証人シリーズみたいなもんだな。そして、この文章は、生き証人シリーズ第 3 弾のようなもの。

昨 2011 年 9 月 25 日、僕は、HP に次のように書いている。

（今日の文章、長くなりすぎたので、後日、「政策技術屋がみる一体改革」というタイトルにでもして、まとめようかね）

あの日は、後に、次の形でまとめられることになる、AgingForum のインタビューを受けた日。

権丈報告要旨 [「持続可能な中福祉という国家像」](#)

（2011 年 11 月 9 日 [Aging Forum 2011](#) 於 目黒雅叙園）

インタビューに来た人たちに、僕は、追加説明として、ここ数年の動きを HP にまとめた模様。そして、そこに書かれたことをみた人から、次のメールが届く。

> さて、25 日付の先生の HP は、これまでの大きな流れを強い思いで書かれた  
> 内容に感じました。

いや、強い思い、なあってのは僕には似合わず、ちょいとぬるい程度なんだけど（笑）、分かる人には、この一連の動きは、2006 年 12 月 27 日にはじまった「医療費の将来見通し

に関する検討会」までさかのぼることができるんだよな。

- ✓ 勿凝学問 60 [「医療費過大推計の法則」が成立する理由\(りゆう\)——厚労省陰謀説のウソ](#)

でもまあ、当時やっていたことが、今のところまで関わってくるなんて、当時は想像もしてなかったわけで、そのあたりを、去年の9月25日に書いていた。それを、まとめておきます。学生とかは、次の言葉が気に入ってたみたいだな。

でも、あの研究ってのは、二木先生からの質問に答えるために、しぶしぶやっていただけなんだけどね。世の中、なにが起こるかわからんよ(￣。￣)ボソ...

まあ、世の中、そんなもんさ。。。

今週、僕の研究室にインタビューに来られた方々へ

昨日、「松本のシンポジウムでは、「僕は、雑駁な議論が苦手です・・・」と言って、エビデンスベースの講義？をしてしまったけど」と書いたので、先日のインタビューの補足をば。

自分を政策技術屋と思っている僕が、財政・社会保障の「見積もり書」ということを強く意識しはじめたのは、2008年頃。

- 「[生かすべきは社会保障の再分配機能——理想社会の実現に向けて財源論議を](#)」  
『[Vision と戦略](#)』2008年6月号

でっ、その見積もり書ってのは、2020年以降まで、とうの昔に、できあがってしまっているわけです——去年の6月頃までの情報でほとんどできあがる。

- 「[震災復興と社会保障・税の一体改革両立を](#)」『WEDGE』2011年5月号

だから、僕は、2015年までなんて、集まって検討しなくてもわかりきったことで、一体改革に対しては、中長期の工程表の作成を求めることになる。

- 「[財政・社会保障一体改革の工程表を](#)」『週刊東洋経済』2011年5月28日号

まず認識すべきは、5%程度の消費税引き上げは、負担増の一里塚に過ぎず、そ

の程度では財政の健全化も実現できないこと。次に消費税率の実現可能な引き上げ幅を考慮すれば、今後の社会保障も、公費といわれる税への期待だけに偏らず、社会保険料中心の制度の維持強化にも努めるべきだということである。

集中検討会議は、財政全体の中で社会保障を位置づけながら、租税と社会保険料、双方で財源を確保する中長期の道筋を、正直に国民に示す工程表を出してほしい

事実、7月1日に成案化した一体改革案には、次の文言がある。

2015 年度段階での財政健全化目標 6 の達成に向かうことで、「社会保障の安定財源確保と財政健全化の同時達成」への一里塚が築かれる。

与党の政治家さんたちをはじめ、国民の多くは、「2015 年、消費税 10%水準」が一里塚でしかないことをあんまり分かっていないんだから、ちゃんと正直に示そうよ、妙に隠し立てをしない方が、実現可能性も高まる、というのが、僕の昔からの論。それに将来の消費税引き上げが不確実だったら、財務省には社会保障の財源先取りなんて認める余裕がなくなり、社会保障機能強化は先送りされ、実現できても微々たるものになってしまう。このあたりの「正直」という言葉が入った文章が次。

- 「[社会保障改革と税制——国家運営行き詰まりの原因と正直な未来像](#)」『月刊福祉』2011 年 9 月号

でっ、だ。ここで、この一連の流れを回顧してみるとする。

次は、2008 年 3 月 21 日の社会保障国民会議第 2 回親会議の[議事録](#)から

権丈委員

・・・

それと、最後になるが、私のほうから雇用年金分科会にお願いしたシミュレーションというのがある。年金論というものは量についても議論しないと話にならないというのがあり、[要望書](#)を出している。

その要望書の中で、私は定量的な議論、データに基づいた議論が必要であると言っており、基礎年金の 100%租税財源化について定量的なシミュレーションをお願いしている。

基礎年金の税財源について、現行の 2 分の 1 から 2 分の 2 に移行する場合、どのようなことが起こるのかという問題があるのだが、きょうお話ししたいのは次のところで、医療や介護といった別の社会保障給付制度も加味した財政規模のシミュレーションも行ってもらいたいという話をしている箇所についてである。

私、実は去年の今ごろは「医療費の将来見通しに関する検討会」というところで、2025 年ぐらいまでの医療費をどのようにして試算していけばよいかというようなことの検討会で委員をしていた。今、この国には 2006 年のときになされたシミュレーションというのがあるのだが、そこでの方法は、基本的には過去の医療費の伸びから傾向を取り出し、そこに将来的な人口高齢化の影響を加味してやるというくらいだ。

だから、今の医療費の水準ということを前提にして、それを 20 年間延ばした結果としての 2025 年の医療費の値のままでは、その頃医療は完全に崩壊していますというふうに私は言い続けていた。

だから、要望書の中で「医療や介護といった別の社会保障給付制度も加味した財政規模で検討してほしい」というときに、2006 年時になされた試算値だけを上にぽんと乗せるというのだったらば低負担下での医療・介護でしかなく、2025 年頃には日本の医療介護は崩壊する。

これをある程度意味のある医療制度改革というような形で中負担したらどんなことになるんだ、今ある推計に上乘せした形で、このくらいの負担をすれば、どれくらいのことができるというような形のものも、年金の負担の上に加味した形で財政規模のシミュレーションを行うことを許していただければ、あるいはそこまで考えてよいかというのを伺いたいのだが、よろしいか。

吉川座長 了解した。

資料

勿凝学問 187 [「ところが改革ケースをみると費用はより増える結果になっている」——医療介護費用シミュレーションに対する日経社説の反応](#)

勿凝学問 193 [医療介護費用シミュレーション結果は最低ラインの見積書にすぎない——「実は GDP に占める医療介護費用の割合は、価格の上昇次第でいくらでも増えるんです」](#)

いま、考えると、これは単なる偶然なんだけど、上に出てくる「医療費の将来見通しに関する検討会」なるものが、今できあがっている見積書作成に、なんとも重要な役割を果たしていることになるわけだ。あそこで、医療費が経済成長率と関連することが確認されて、社会保障国民会議でのあるべき医療介護のシミュレーション方法——供給体制と価格を分離した、世界に例がない方法——が生まれてくることになる。

- 「医療費の将来見通しに関する検討会」報告書

平成19年7月11日

### 「医療費の将来見通しに関する検討会」議論の整理

○ 現在厚生労働省が提示している将来見通しにおける医療費の伸び率の前提は、算定基礎期間における医療費の伸び率の実績から、人口の高齢化の影響と制度改革効果を除いたものを基礎としている。このため、医療の高度化などに伴う自然増と算定基礎期間における診療報酬改定率が含まれたものとなっている。

ここで、診療報酬改定率は政策的に決定されるものであるが、長期的には、タイムラグはあるものの、経済動向との間に結果として一定の関係が見られることから、医療費の伸び率を設定するにあたり、例えば、自然増分と診療報酬改定分を区分して、将来見通しの前提となる診療報酬改定率は経済との関係を勘案して設定することも考えられる。

26

Keio University  
Y Kanjoh



- 社会保障国民会議「医療介護シミュレーション」の方法

## 新しい医療費試算

### (2)シミュレーションB(改革シナリオ)

(選択と集中へあるべき姿を踏まえたシミュレーション)



※ 医療・介護サービス提供体制の改革に関して、B1、B2、B3の3通りの改革シナリオを想定

37

Keio University  
Y Kanjoh



このあたりは、次を参照あれ。

2009年10月6日(火)12時30分 於 ニッショーホール

基調講演 権丈善一氏(慶應義塾大学 商学部 教授)

「[医療費の将来見通し方法の進化と政策の意思](#)」

「医療費の将来見通しに関する検討会」でどんな議論がなされたかは、[議事録](#)や次を参照あれ。この検討会、出だしは、トンチンカンな厚生省陰謀説が盛り上がった政治状況の中から生まれたものだった。。。そのあたりを読み取って、歴史のおもしろさを味わっておいてくれ。

- 勿凝学問 60 [「医療費過大推計の法則」が成立する理由\(りゅう\)——厚労省陰謀説のウソ](#)
- 勿凝学問 74 [医療政策担当者と、いち医療研究者の齟齬——所得、政策、医療費の因果関係をめぐって](#)
- 勿凝学問 78 [医療費はなぜ増える？——増加要因と価値判断](#)

う〜ん、となると、これも単なる偶然なんだが、僕が昔々、時間をもてあましていたときに、医療費の決定因子なるものを考えていたことが、後々、僕の論に大きな影響を与えることになったことになる。。。でも、あの研究ってのは、二木先生からの質問に答えるために、しぶしぶやっていただけなんだけどね。世の中、なにが起こるかわからんよ(――)ボソ...あの頃の研究は、次にまとめていて、次のような文章を書いていたから、「医療費の将来見通し検討会」なるものに呼ばれたんだと思うけどね。

- 「再分配政策としての医療政策——医療費と所得、そして高齢化」『日本の社会保障と医療——再分配政策の政治経済学Ⅰ』
- 「総医療費水準の国際比較と決定因子をめぐる論点と実証研究」『医療経済学の基礎理論と論点』

そういう意味で、先日のインタビューで答えたように、「家を作るための見積書、設計図ってのは、もうできあがってるんですよ。後は、政策技術屋としては、あんまり関心ないなあ。なんか、今頃になって張り切ったりしている人がいっぱいいるみたいだけど、いいんじゃないかい(笑)。僕には関係ないし、関わりたくもないね。だって、時間って、もっと愉しく意味のあることに使えるんだよ・学生と飲みにいった方がおもしろいだろうし。。。」ということになる。

ちなみに、政策技術という言葉は、次をどうぞ。

- [「政策技術学としての経済学を求めて——分配、再分配問題を扱う研究者が見てきた世界」](#)『at プラス』 2009 年 8 月号

(今日の文章、長くなりすぎたので、後日、「政策技術屋がみる一体改革」というタイトルにでもして、まとめようかね)

## 後日談

なんらかのファイル操作ミスで、2011 年 9 月のはじめから 12 月のはじめまでの HP のファイルが消えていたのが発覚。そのことを 1 月 9 日に HP に書いていたら、翌日の 1 月 10 日に次のメールが届く。

きょっ、恐悦至極に存じ奉りますく( \_ )>ﾊﾟｺｯ

先生の HP のデータが消えて私も残念に思っておりました。

昨日、自宅でたまーに使う PC のブラウザを上げたら 12 月 2 日分までの HP が表示さ

れ、急ぎ保存しました。

お送りしますので修正を是非、なるべく、お願いします。く( \_ )>

いえね。年末に、次のメールを思い出して、昨年 9 月 25 日の HP を読み直してみようかなと思ったら、消えてることを発見したわけです(T\_T)ﾄﾁｯ

> さて、[25 日付の先生の H P](#) は、これまでの大きな流れを強い思いで書かれた内容に感じました。

うん、今の動きを、2006 年の「医療費の将来見通しに関する検討会」にまでさかのぼって考えることができる人って、なかなかいないよな。そして、あの頃、「厚労省は、医療を過大推計している!」「いや、それは違うだって」と言っても、「権丈さんは、何を言っているんだあ」という感じで、全方位を敵に回してやり合っていた議論が、後に、医療費の新しい将来試算方法を生みだして・・・・・・国民会議での医療介護シミュレーションに発展していく。2006 年当時、そこでやってた当人たちは、その後の展開なんか、なんにも考えないでやっていたわけで、偶然に偶然がかさなって、物事が進んでいくという、いろいろな意味でおもしろいことが書かれていた HP を、おかげさまで復活できました。だいたい、僕は、医療費決定要因の研究や、それに年金なんてのはやりたくてやったわけではなくって、むしろ嫌々ながらやっていたわけで、でも、世の中、そういうもんさってことが書いてあるところでもあるんですよね。

[昔のこと](#)のところに貼り付けさせて頂きました。

画像がいくつか外れていますけど、いつか、復活させておきます!

って、どんな画像だったか、忘れてしまっているのもあるようだけど。。。 (T\_T)ﾄﾁｯ

いやはや、本当にありがとうございました。